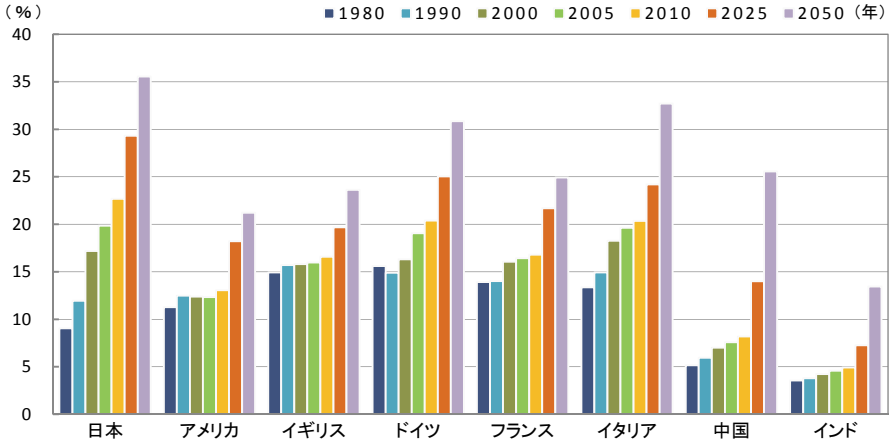


2-3 老年人口比率（65歳以上人口）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-5表 老年人口(65歳以上人口)」(p.59)を参照。

出生率の低下と平均寿命の伸長により、高齢化が進む諸国が増加傾向にある。2005年から2050年間の世界人口の増加の半数は60歳以上人口の増加によるもので、これと対照的に、15歳未満人口は著しく減少する見通しである。2011年時点で8.9%であった60歳以上人口は、2050年には20.2%に達すると予測されている。とりわけ先進地域における高齢化の進展が顕著で、2011年時点の22.1%から2050年には31.9%と大幅に増加する一方で、15歳未満人口は16.5%から2050年に16.3%となり、高齢者のほぼ半分となる。とりわけ日本の高齢化は急速で、2010年、2025年、2050年のいずれの推計でも欧米先進諸国を上回っており、極めて老年人口の割合の高い国になると予測されている。

他方、現在は比較的出生率が高い発展途上地域でも、出生率の低下と平均寿命の伸長により、高齢化の進展は急速であるとされており、2011年時点では9%に過ぎない老年人口比率は、2050年には20%に達する見通しである。上のグラフからも、中国やインドの高齢化が先進諸国より急速であることがわかる。